令和2年度　西東京市立明保中学校　学校評価報告書

学校教育目標　すすんで学び　心身ともに　健康で　思いやりのある人になる

目指す学校像（ビジョン）

【目指す学校像】　考える学校　＊アイデアを出し合って、より良い方法をみんなで考える。　＊生徒も教職員も保護者も地域住民も行きたくなる学校のあり方を考える。□
【目指す児童・生徒像】　考える生徒　＊授業において自分の考えを書いたり伝えたりする活動を重視する。　＊生徒の声を積極的に反映させる。
【目指す教師像】　考える教師　＊より良い方法を考え会議等で提案する。　＊課題を次年度の持ち越さずスピード感のある学校改革の実現を図る。

	具体的方策	評価		課題と次年度以降の対策	学校関係者評価	学校関係者評価
		努力目標	成果目標			
授業の質の向上・改善［学力向上］	「生徒に考えさせること」を学校経営の柱に揚げ、教師主導型の授業を見直し、生徒の思考力・判断力・表現力等を育むことを意識した授業を行う。	4	3	「生徒に考えさせること」を学校経営の柱に揚げ、教師主導型の授業を見直しについては、教員アンケートより、肯定的な回答が88%から、授業の質の向上・改善が積極的に図られていると考えられる。しかし、保護者アンケートの2項目は、肯定的な回答が79%と74%とやや課題が残った。今後も継続的に、授業の工夫・改善を行っていく。また、教員に比べて保護者の肯定的な意見が低い。否定的意見の教員から具体的な取り組みを提案してもらい、実行に移すとの意見があった。教師と保護者のとらえ方の相違点を解析し、肯定的意見が増える取組を実施する。	4	全教員が各年2回の授業観察、教員面接を実施し、フォローが出来ている。否定的意見の教員から具体的な取り組みを提案してもらい、実行したらどうか。教師から見たものと保護者が思っているところの違いが気になる。
	「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った改善授業、適正な評価・評定を推進するために、校内研修会の充実を図る。	3	3	「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った改善授業については、教員アンケートより、肯定的な回答が76%に留まった。これに対して、保護者アンケートの2項目は、80%と76%の値を示した。今後、ICT機器も活用しながら興味・関心を高めつつ、主体的・対話的な深い学びを通して、基礎的・基本的な定着図る取組を一層進めて行く。学校関係者からの、「否定的意見の教員から、教科別に改善に向けた具体的な取り組みを提案してもらい、実行してはどうか」との意見を受けて改善策を検討する。	4	授業を通じて、基礎的・基本的な学力が身についてきていると思われる。保護者、生徒の評価も78%と高い。工夫をこらした授業をしていることが感じられる。タブレット利用の授業が増えても、生徒自身の手口耳で考え覚えることが大切。
	英語検定・漢字検定・数学検定を校内で実施する。また、英語力向上のため英語検定対策講座を実施する。	3	2	英語検定2回（1回目生徒参加81名）（2回目生徒参加62名）、漢字検定2回（1回目生徒参加50名）（2回目生徒参加37名）、数学検定0回実施（応募なし）。2学期は、英語科による英検対策講座と外部人材による英検対策講座（2学期1回準2級と3級受験対象で実施、26名参加した）。来年度は、計画通り実施できることを期待する。感染症防止対策を講じながら、安心して受験に臨めるように準備を進め事前講座等を行い受験者の増加を図る。	3	英語検定、漢字検定の2回実施。一学期に比べてやや努力不足の感がある。今年は社会状況から実績減は仕方がない。
人権教育の推進［心の育成］	人権教育の年間指導計画に沿って、外部講師を招聘した個別的な視点から取組を行い、生徒の人権意識を高める。	2	4	「人権意識を高められたか」の教員アンケートより肯定的な回答が68%に留まった。それに対して、保護者・生徒アンケートは、肯定的な回答が85%になった。平成28年度の人権尊重教育推進校から始まった「生徒による人権宣言」が生徒の中では定着しつつあるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校としての取組にやや課題が残った。今後も継続して指導に取り組む。	4	人権尊重教育推進校指定の2年間の中で人権教育を取り上げ、人権意識は高められた。生徒も重要性を認識している。今後も継続的な指導に取り組む必要がある。
	教職員の生徒に対する言葉遣いを互いに点検し合う取組を推進し、教職員の人権感覚に磨きをかける。さらに、体罰や暴言の禁止、個人情報の適切な管理、自転車を含む飲酒運転の防止に重点を置きながら、服務事故防止研修を計画的に行い、教職員の感性や	4	4	教員の体罰・暴言等服務点検を行うことにより、生徒指導のあり方を見直していく。教員アンケートより肯定的な回答は、100%である。保護者・生徒アンケートでは、肯定的な回答が90%と91%となった。今後も生徒の満足度が100%になることを目標に人権感覚を高めていく。	4	全教員に生徒指導のあり方の見直し（服務研修等）が行われている。学校生活が楽しいと思っていることは、環境が良いからと評価できる。
	子どもの権利擁護委員(CPT)を招聘した校内研修会や道徳授業地区公開講座を実施し、子ども権利侵害が生じない、人権感覚の高い学校にする。	4	4	本校の西東京市教育委員会研究奨励校としての取組は、新型コロナウイルス感染症の中でも、外部講師の授業を行うことができた。教員アンケートの肯定的な回答は、78%に留まった。保護者・生徒アンケートでは、肯定的な回答が92%となった。しかし、7%の楽しく過ごせていない回答に課題が残った。取り組む行事等の工夫・改善を行っていく。	4	新型コロナウイルス感染症の中でも、外部講師の授業を工夫して行ったことに対し、肯定的な回答は78%。保護者、生徒アンケートでは回答が92%となっている。しかし楽しく過ごせていない回答が7%ある。

いじめ防止対策	①定期的な校内いじめ対策防止委員会の実施 ②外部の機関と連携したいじめ対策防止委員会の実施 ③生徒の実態把握の実施	4	4	「いじめ」に関する取組では、学校いじめ対策委員会を中心に組織的に取り組むことができた。教員アンケートの肯定的な回答は、100%になる。生徒アンケートは、2学期に1．2年生に実施した。肯定的な回答は、98%と99%と99%となった。やや不満と回答した生徒の対応も重要と考える。ひとり一人に対する声かけをさらに丁寧に行っていく。今後はやや不満と回答した生徒のフォローが重要となる。	4	いじめ対策委員会の組織的な取り組みは評価できる。教員のアンケートで肯定的な回答は100%である。生徒のアンケートでも肯定的な回答は98～99%である。道徳・人権教育が定着している。生徒と個別に話せる時間が大切。
業務改善の取組	①経営支援部を中心に、校務・職場改善の研修実施 ②働き方改革を組織全体・個人で検証していく。	4	1	「働き方改革」により「ライフワークバランス」を再度見直した。昨年度より、西東京市教育委員会と三菱UFJコンサルティングの指導のもと職場の環境改善を行った。教員アンケートの肯定的な回答は、92%となった。（不要備品の整備・教室等の整備・職員室や印刷室の配置等）	3	比較在校時間が1割未満の評価基準に照らして低い評価となったが、新型コロナウイルス関連の影響であり、勤務時間はほぼ横ばい傾向と言える。大変な一年を乗り越えてきた。生徒に自信をもった教育は自身を向上させる源になってくる。
生徒の意見・生徒の参加重視	西東京市子ども条例に基づき、生徒が主体的に考え、参画する教育活動の充実を図る。特に、学校行事の内容、学校生活のきまりについて、改善・充実を図る。	4	3	「西東京市こども条例」を踏まえた教員研修会の実施やCPTから講師を招き、授業をおこなった。また、校則についての見直しを職員や生徒を対象に行った。保護者・生徒からの肯定的な回答は、80%と71%だった。新型コロナウイルス感染症の影響で、学校生活に課題が残った。来年度は、計画通り実施できる環境となることを期待する。校則の見直しは課題も含め継続検討が必要と考える。	4	教員研修会の実施CPTからの講師を招いての授業を行った。標準服は男女に関係なく選択できるようになった。教師と生徒が一緒に考えた校則が実っている。自分たちの校則を自身で決めることは、大人になっていく準備としてとても大切。
	保護者や地域の声を反映させながら、時代に変化に対応した保護者活動、地域行事・部活動等の在り方について検討行い、内容の改善・充実を早急に行う。	4	4	「保護者や地域の声を反映させた活動のあり方」については、教員アンケートの肯定的な回答は100%でした。保護者・生徒アンケートからの肯定的な回答は、98%と93%でした。比較的高い理解が得られていると考えらる。新型コロナウイルス感染下の中でも、行事等工夫・改善をしながら取り組んで行く。	4	保護者や地域のアンケートでは、肯定的な回答は100%。保護者、生徒のアンケートからの肯定的な回答は98%（93%）と、比較的高い理解が得られている。地域との連携を図りながら行っている開かれた学校である。
	スクールソーシャルワーカーや教育支援アドバイザー等の専門家と連携を図りながら 教育支援コーディネーターを中心とした校内委員会の充実を図る。	4	3	「特別支援教育について」教員アンケートより肯定的な回答は、96%でした。保護者・生徒アンケートより肯定的な回答は、81%と82%でした。定期的に教育支援課と情報共有することができた。また、外部の関係機関とも連携することができた。来年度は、校内教育支援委員会組織を組み替えることにより、今以上に、特別支援教育の充実を図る。引き続きスクールソーシャルワーカーや教育支援アドバイザー等の専門家と連携を図りながら 教育支援コーディネーターを中心とした校内委員会の充実を図る。さまざまな意見の保護者の気持ちも配慮した取組を行っていく。	4	来年度の校内教育支援委員会組織の組み替えることによる、更なる特別支援教育の充実に期待したい。
	中学校L教室モデル実施の成果や課題を整理し、教育委員会との協議を重ねながら改善・充実を図ることで、次年度以降の指導の充実を図る。	4	4	「中学校L教室モデル実施」については、教育委員会との情報交換を含めて研修会を行った、分科会も含めて4回以上は実施できた。また、実際のモデル校のL教室についても4回以上は実施できた。来年度は、本格的なL教室実施に向けて、特別支援専門員と連携をとりながら、個に応じた指導の充実を図る。	4	「中学校L教室モデル実施」については、教育委員会との連携により充実されている。令和3年度は本格的なL教室実施に向けて、特別支援専門員と連携を取りながら、個の応じた更なる充実に期待したい。